

## 「2022（令和4）年度 全国公立高等学校・中学校修学旅行実施状況調査」まとめ

コロナ禍3年目の、2022（令和4）年度の修学旅行は凡そ全国の公立高等学校・中学校で実施された。それぞれの主な特徴は以下のように纏められる。

### 【公立高等学校】

- 一部、中止、次年度へ延期の対応を執った学校はあったが、前年度延期学年の実施による二学年実施を含め90%以上の学校で修学旅行が実施された。
- 少数ではあるが海外修学旅行が再開された。
- 修学旅行方面の、コロナ前（2019年度）との比較について
  - ・コロナ前、関東地方を中心に多くの学校の入域により、修学旅行先全体の20%以上を占めていた沖縄方面は回復には至っていない。
  - ・関東方面は、地元関東地方の学校が昨年度延期をした学年の近隣への「代替修学旅行」の実施により数値を伸ばしたが、北海道地方と中国・四国地方からの修学旅行の大幅な減少により、2019年度比83%に留まった。
  - ・近畿方面は、北海道地方、東北地方からの修学旅行が減少したが、他地方からの修学旅行が増加し、全体として2019年度を上回ることとなった。
  - ・主要旅行先（沖縄、近畿、関東）の減少により、東北、北陸、東海、中国・四国、九州方面などが増加する逆転現象が、昨年度から続いている。

### 【公立中学校】

- 中止、次年度への延期は、0、4%であった。
- 2019（令和元）年度、全体の約半数を占めていた近畿方面（京都）への修学旅行は、40%強まで回復した。（令和3年度は、約18%）
- 近畿、中国・四国地方の学校の入域が中心であった沖縄方面は、陸続きの旅行先への変更により回復できない状況が続いている。
- 関東地方を中心とした、JR連合体輸送での近畿方面への修学旅行は回復しつつあるが、他地方では、令和3年度から引き続き「地元・隣県」への修学旅行の実施が多く見られた。

### 【私立高等学校・中学校】※2021（令和3）年度との比較

- 海外修学旅行の再開（オセアニアを中心に動き出している）
- 中止、次年度への延期がほぼ無くなった分、多くの国内方面で増加した。公立と違い遠方への修学旅行の伸びが顕著であること。まだ本格的に実施することのできない海外修学旅行に代わる国内の修学旅行先として沖縄、北海道、九州などが選ばれている。